東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー テーマ
奉仕を通じて平和を

Vol.46　第2240回例会　2012.11.22

今年度会長テーマ　和で輪を広げ、前に進もう

■司会：
相羽例会運営委員

■点鐘：中丸会長

■合唱：ロータリーソング
「それでこそロータリー」
◆ソングリーダー：
村田会員

■お客様紹介：
町田パスト会長

◆ゲスト：
米山奨学生　朴動浩君

■会長報告　中丸会長

皆さんこんにちは。いよいよ衆議院選挙も決まり慌ただしくなって来ました。今度の選挙では原発の問題も争点の一つになると思いますが、昨日の日経新聞にドイツに関する記事が掲載されました。お読みになった皆様もいると思いますが、要約をお話しさせて頂きます。

2022年までに国内の原発を全廃し、太陽光や風力など再生エネルギーを拡大する方向にかじを切ったドイツが壁に突き当たっている。ドイツ国内では「この戦略は完全に混乱状態に陥った」との批判が広がっている。国民に衝撃を与えたのは、10月中旬に独送電事業者が発表したコスト試算だ。今の再生エネルギー法（ＥＥＧ）では、再生可能エネルギーの買い取り価格が欧州の電力取引の平均価格を上回る場合、その差額分を国民や企業が負担する。割高な太陽光発電の急速な普及で買い取り費用が膨らんだ結果、来年の負担金が今年に比べて5割程度増えることが判明した。平均的な一般家庭で年間約6千円も負担が増えることになる。今の制度では、地域の電力会社は再生可能エネルギーで発電した電力を無条件で全て買い取らなければならない。国民と企業が支払う差額分の負担も青天井になる。環境相も「コストについて熟慮が足りなかった」と認める。

国民の不満の矛先は企業にも向かう。ＥＥＧには電力を多く使う大手企業の場合、買い取り費用の負担を一般家庭より低く抑える特例がある。企業の競争力維持のための特例だが、「大企業優先」との批判が噴出。メルケル首相も特例の見直しを示唆せざるを得なくなった。これに産業界は「国際競争力を維持出来ない」「電力料金がさらに上がれば、多くの企業

が工場の海外移転を考え始めるだろう」と警告する。欧州債務危機で経済の失速懸念が強まるなか、再生可能エネルギーの普及コストの増加は、ドイツ経済の更なる痛手となりかねない。

今年7月から、固定価格での再生可能エネルギー買い取り制度が始まった日本。ドイツの現状から学ぶべき点はすくなくない。

以上のような記事が掲載されていましたが、これは原発の問題とかなり関連しています。皆様はどのようにお考えでしょう。

さて、話は変わりますが今朝、テレビのニュース番組で嬉しいニュースが放送されていましたので紹介致します。

日本の東端、東京都小笠原村に属する南鳥島、面積約1k㎡のこの島の周辺で大量のレアアースが発見されました。その経済価値は100兆円にも及ぶと推定され、日本の現在の使用量の230年分にあたるそうです。日本の製造業にとって欠かせないレアアース。5年以内の事業化を目指して、いま港湾設備の整備にかかっているとのこと。日本が実効支配しているこの島、現在は気象庁と自衛隊の職員が常駐しています。

またどこかの国が尖閣諸島同様に、資源目当てに横やりを入れてこないことを願います。

今日は長々と話させて頂きましたが、以上で終わりとさせて頂きます。

■幹事報告　赤木幹事

■ガバナー事務所：

・会員増強「ＳＡＫＵＪＩ作戦」協力のお願いについて
日本における会員増強達成のためのサクセスジャパン作戦→サクジ作戦
<プロセス>
紹介状による新入会員の受け入れについて審議
↓（参加する場合）
登録
↓（紹介があった場合）
紹介状を受け取り本人と面談
↓
クラブにて入会審議
↓
地区報告

・クラブ公式訪問の礼状の受理

・「ロータリー世界平和フォーラム広島」案内について

・「ロータリー世界平和フォーラム広島」ポスターセッション募集について
展示数100程度
締切：2013年2月15日

■環境保全委員会：
「省エネ・地球温暖化防止対策のアンケート」協力のお願いについて
返信期限：12月3日

■新世代奉仕委員会：
地区新世代奉仕委員会アンケート（地区内実態調査）のお願いについて
回答期限：12月19日

■社会奉仕委員会：
（多摩・武蔵野分区合同）社会奉仕委員長会議の案内の受理
2012年12月11日（火）　15:00～
於　ガバナー事務所

■国際ロータリー日本事務局：

・2012年12月のロータリーレート　1ドル＝80円

・国際ロータリー日本事務局　奉仕室臨時ニュースレター第4回「次期クラブ役員の登録」

■第2580地区北分区ガバナー補佐：
北分区ＩＭ出席の礼状の受理

■東分区東京臨海ＲＣ：
東分区ＩＭ出席の礼状の受理

■東村山消防少年団：
防火防災安全祈願餅つき大会の案内について
2012年12月8日（土）　10:00～12:00
於　東村山消防署裏庭

■東村山市陸上競技協会：
第24回東村山市民周回駅伝競走大会実施要綱について
2013年1月13日（日）　8:30受付
於　都立狭山公園

■回覧：
東京小平ＲＣ週報
ロータリー補助金ニュース
東村山防衛協会　会報・冊子

■出席報告　野村（裕）会員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
31	26	0	3	89.66

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：2名
■前々回出席率メークアップ修正後：92.59％
■前々会メークアップ者：
相羽会員：地区ゴルフ
赤木会員：理事会
飯田会員：理事会
野村（高）会員：多摩ＧＲＣ
野崎会員：地区米山委員会

■ニコニコＢＯＸ　　山宮クラブ管理委員

■ご結婚祝月：
村田会員

■会員誕生祝月：
村田会員

◆中丸会長、赤木幹事：
20日の分区決勝ゴルフ大会出席の皆様ご苦労様でした。また来年頑張りましょう。本日は中村さん卓話よろしくお願い致します。

◆野澤会員：元青少年交換留学生、中村えいみさん、卓話快く引き受けて下さりありがとうございました。ボルボ新車も入りました。お蔭様です。

◆田中会員：先日の地区ゴルフ大会決勝戦6位入賞でした。選手の皆様お疲れ様でした。来年こそ各自レベルアップしてグロスの成績を良くしましょう。

本日のニコニコ合計：　18,000円
累　　計　：　661,000円

■奨学金授与

■中丸会長から朴動浩君へ

■近況報告：
米山奨学生　朴動浩君

こんにちは。今日は久しぶりに出席したような気がします。最近、寒くなってきましたが、私は寒くなるとどんどん元気が出てくるので、これからも頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

■委員長報告

■野崎地区米山奨学委員会
副委員長

こんにちは。このところ次年度に向けていろいろと会合を重ねております。次年度の選考試験ということで、ずっと前からやってきましたが、11月4日、5日、6日と3回にわたってオリエンテーションを行いまして、12月14日に次年度の選考を行います。選考については、浅川パストガバナー、戸澤パストガバナー、本年度の石川ガバナー、次年度の吉田ノミニー、鈴木孝雄ノミニー、鈴木たかしノミニーと全員参加していただきます。面接試験は3名が5組になって約20分の面接、それと別の方法でさらに25分、一人当たり45分の時間を使って行います。今年度の応募者は45大学86名、そのうち4大学6名は沖縄です。大学の内訳は医学関係、人文関係、社会科学関係、芸術関係と多岐にわたっております。

また前々から中国の方が多すぎるのではないかとのお話もありますが、中国につきましては今年度、48名の応募があります。韓国の方が15名、その他が17名ということです。1780地区でとる学生は40名ですので、中国の学生は最大で12名ということになっております。中国、韓国以外でも今年はスウェーデン、ベネズエラなど今までとは違った国からも何名か見えております。試験の実施結果については後日、お話ししたいと思います。

先週の土曜日には青少年交換留学50周年ということで、原宿の南国酒家で会合を行いました。ローテックスの登録は108名、ロータリアンは12～13名でした。ローテックスがこれからどうやって社会に寄与できるかという内容が呼びかけの主旨です。石川ガバナーからローテックスという呼び方はやめて、学友会という名にするような指示もあったようで、それについてはまた考えていかれると思います。ありがとうございました。

■漆原社会奉仕委員長

こんにちは。先日の10日(土)11日(日)の2日間、産業祭にご協力いただき、本当にありがとうございました。玉葱とフランクフルトを販売したのですが、

玉葱は30ケースの予定が早い時間に完売しまして、10ケース追加しました。フランクフルトは1200本売る予定でしたが200本は返品させていただきました。少し内容は変わりましたが、意外とゴボウの方が人気がありまして、次年度からまた販売できたらうれしいなと思います。2日間ご協力ありがとうございました。

■村田ロータリー財団
委員長

こんにちは。今月は財団月間ということで、「毎年あなたも100ドルを」の呼びかけに、ほとんどの方が寄付していただいて本当にありがとうございます。今月残りわずかであと数名なので、寄付をぜひよろしくお願い致します。以上です。

■３分間スピーチ

■発表者紹介：
山本職業奉仕委員長

みなさん、こんにちは。本日の3分間スピーチはパストガバナーでもあり、パスト会長でもあります、経験豊かな目時会員にお願いしたいと思います。
また、3分間スピーチの順番ですが、いろいろなご都合で抜けている方がいらっしゃいますので、後ろに押していきます。自分の番はまだだと思っていても事務局から連絡がいくと思いますので、その節は皆さん、どうぞよろしくお願い致します。では目時さん、よろしくお願いします。

■目時会員

皆さん、こんにちは。昨日事務局の菱沼さんから電話をもらい、今日の3分間スピーチをお引き受けしたのですが、例会場に来るまで何を話そうか考えていました。来たら、たまたま集金袋に「地区大会」と「武蔵村山の40周年」が入っていまして、前々から私が非常に矛盾に感じていたことを自分なりの考えでお話しさせていただこうと思います。
2月19日に地区大会が行われますが、当地区には約3,000名の会員がおり、中央分区、北分区、東分区、武蔵野分区、多摩分区、沖縄分区と6分区あります。中央分区には約1,000名を超す会員がいるのですが、地区大会の登録はどのくらいだと思いますか。多摩分区、武蔵野分区は当然100％です。中央分区はおそらく20～30％です。非常に矛盾を感じています。樺澤さんの時も声を大にして言っていたのですが、修正はされませんでした。今、地区委員長の戸澤さんが一生懸命活動されていますが、先日、中央分区のＩＭに行くというので私は行かない方がいいと言いました。中央分区のＩＭは1,000人の会員がいて最後まで残ったのは50人いないそうです。委員長代理として山本さんが「オン・ツー・リスボン」の垂れ幕を持って行ったのですが、その時間さえ作ってくれなかったそうです。北分区と東分区は大歓迎してくれたと思いますが、中央分区はそういうクラブです。私はロータリアンであれば地区大会、ＩＭは全員登録が当たり前だと思うのですが、そういう地区が日本で一番のクラブを有する地区であるとことは知識として頭に入れておいてほしいと思います。ありがとうございました。

■卓話

■卓話者紹介：
野澤パスト会長

皆さん、こんにちは。今、目時さんからお話しがありましたように、私も久しぶりに山本さんとご一緒して、北分区のＩＭに行ってきました。北分区には青少年交換委員当時のなつかしいメンバーがたくさんおりますので、久々に旧交を深めてまいりました。北分区は16クラブあって、メンバー数も500名を超えており、ＩＭの時間を結構とりまして「我がクラブの自慢話」をテーマに、とても参考になる話を聞いてきました。
さて、今日は急遽、村田さんが財団の方で予定がとれないということでお願いされ、私が委員長当時、第43期(2007-2008年)にインド派遣しました中村さんをご紹介いたします。
インド派遣というのは、この時が初めてでした。インドは今、ロータリーのメンバー数もアメリカについで2番目になりました。パソコンや携帯電話等ＩＴ産業がすごく発展していて、優秀な人材を持つ国ですから、これからおそらく世界の一等国になるだろうという期待もあり、これからはインドとも交換をしていこうということで初めて派遣することしたのです。いろいろと調査をしたところ、ロータリーのメンバーに受け入れをお願いするから身辺の安全は保障されているけれども、治安が悪く、大変ルーズな国だということを聞いていたので、「誰を派遣しようか」と大変悩みました。そこで毎年受け入れや派遣をお願いしている武蔵野女子学院高校、国際理解教育室の阿部先生に相談にいきました。「そちらで留学を希望している中村瑛美さんをインドに派遣したいのですがいかがなものでしょうか」と言うと最初はびっくりされたのですが、よく考えて「あの子なら大丈夫よ」とお墨付きをいただいたので、イン

ド派遣が成立したのです。後で考えてみると、おそらく他の子だったら途中で帰ってきたのではないかと思います。それがどういうことかというのは本人から話があると思います。

その後、私は大野前委員長とあるクラブに呼ばれまして、インドに、しかも女の子を派遣したことをすごい勢いで怒られました。「私の息子は高校時代にインドに留学させたら、死にもの狂いで帰ってきたんですよ」と、その起こった事例を具体的に話されました。困った、事件でも起きたらどうしよう、と心配しながらの派遣となりました。最初の何回かは非常に厳しいお手紙をいただきまして、それでも音を上げずに頑張った瑛美さんには非常に感謝しております。本人も素晴らしい経験だったと思います。その翌年に2回目のインド派遣を行い、実はその2回で残念ながらインド派遣は終わりになりました。

では、現在、東京国際大学在学中の中村瑛美さんに楽しいお話をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

■青少年交換留学生
中村瑛美様

皆さん、こんにちは。ご紹介に預かりました中村瑛美と申します。よろしくお願いします。今は東京国際大学の3年生で、国際関係学部国際メディア学科で国際報道の方を学ばせていただいております。

インドは日本のおよそ8倍の面積を持つ国ですが、私が行ってきたところは飛行機で成田からデリー、デリーからコルカタへ行き、さらに電車で8時間のところ、かなり田舎のジャールカンド州のラーンチーというところで1年間、留学してきました。

私のいた小さな町のメインロードには、毎日すごくたくさんの人々が行き来していて、外国人などはもちろん一人もおらず、外を出歩くのも簡単ではなく、私は物珍しい女の子だったと思います。ロータリアンのお宅にステイさせていただいたのですが、すごく治安が悪いところで、外へ出ると誘拐や、物乞いがついてきたりなどのことがたくさんありましたので、家の外へは出してもらえませんでした。お手伝いさんが2人いたのですが、お手伝いさんと一緒に家で手伝いをしながら、ヒンディー語を勉強させていただいていました。台所は非常にシンプルで驚きました。

浴衣や着物はやはり人気があるのですが、インド人はあまり世界のことを知らないということを初めて知りました。ＩＴ企業とか数学ができるとか皆さんおっしゃるのですが、私が通った高校のカリキュラムも数学と科学がメインでした。だから皆さん得意な訳ですが、世界史や道徳とかいう教科はなく、保健体育といったものもありません。私がホームステイ先に行った時に「日本は中国のどこにあるの？」と聞かれた時にはガッカリしました。

そして、インドでは本当に一日に3食、1年間、カレーを食べます。インド料理屋に行くと、ナンや何種類かのカレーの乗ったプレートがあると思いますが、あれは贅沢です。毎日の食卓はすごく質素です。ナンは窯がないと焼けないので、家庭ではあまり食べられません。また、私がいたところでは最低1日6時間は停電なので冷蔵庫はありません。だから牛乳を買いに行くのではなく、牛乳がきてくれるのです。牛が家まで来て、玄関で乳搾り、それを毎日やっていました。すごくおいしいです。

また、インドでは毎日いろんなところでお祭りをやっています。深夜2時でも3時でもずっと音が流れていて、最初の頃はうるさくて眠れませんでした。インドには365日お祭りをやるくらい神様がいっぱいいるので、お祭りは日常茶飯事でした。

一番私が問題視しているのはゴミ問題です。デリーやムンバイなどの観光地はゴミ処理場がありますが、小さい町になるとゴミ処理場がなく、ゴミ収集車がこないのです。最近では田舎でもプラスチックなどのゴミが増えてきたのですが、みんながゴミを捨てるところに野良牛がきて、ゴミを食べてしまうのです。衛生的によくないし、生ゴミの匂いも町のいたるところでします。野良象、野良豚、野良ヤギなどいっぱいいて、道もふさがれるといつも渋滞がおきます。インドでは牛は神様、皆さん牛肉は食べません。デリーなどでも牛が道路の真ん中で寝そべっていても、牛が優先なので誰も邪魔をしないし、文句もいいません。また、象を使って宣伝などもしており、コマーシャル象みたいに道を歩いています。先程、野澤さんからの紹介に「この子なら大丈夫」と言われたのは、私も意外と適当な性格ですので、インドの適当さとマッチしたというか、毎日わくわく、今日も平和だなあ、という感じで過ごしていました。

私が通ったデリーパブリックスクールのカラーは緑で、その緑を基調にした制服がちゃんとあります。入った時には学校は建設途中で、インドではよくあることですが、1階ができたら人が入り始め、それから2階を作り始め、2階ができたらまた人が入るので、私が入学した時は、窓もありませんでした。

また、カラフルな民族衣装を皆さん毎日着ています。インド人は自分の国を誇りに思っていて、自分の宗教が一番だと思っています。よく言えば誇り高き民族なのですが、悪くいえば閉鎖的な部分もあり、私が留学中も「インドが嫌だったら日本に帰りなさい」と言われることもありました。

隣町にある、今では世界的に有名となったインド会社の「タタ」の本社では、車をつくる工程や、試しに車を走らせるフィールドなども見学させてもらいました。私のいた町は、はっきりいうと汚い町でしたが、2時間先の隣のジャムシェードプルは、このタタ会社のおかげで遊園地があり、お花畑もあり、道路もきれいでした。そういうところで、企業の力は町おこしにも関係しているのだということを、目の前で見て学ばせてもらいました。

今、問題となっているパキスタンとインドの停戦地に、ホストファミリーと一緒に行ったのですが、ここは「世界の天国」と言われるほどとてもきれいな場所で、カシミヤが有名な地方で、世界で一番高い湖があったりします。ヒマラヤ山脈も見え、すごくきれいな風景があるのに、すぐ側には銃を持った兵士がうろうろしているというギャップに悲しさを覚えました。日本にはない、隣国がある国だからこそこういう問題があるのだなと改めて思いました。

私がインドに行った時に、ホストファミリーが何故か分からないのですが、インドの結婚式に毎日のように連れて行ってくれました。インドの結婚式は世界一美しく、華やかです。皆、歌や踊りが大好きで、最低でも結婚式を3日やり続け、長いと1週間ずっとやっています。

インドへの旅行では味わえない、日常の生活を送らせていただいたので、本当にいい経験になりました。今だから言える話ですが、成田空港で野澤さんがお小遣いをくださいました。その年のシティバンクの社長がインド人で、シティバンクのカードを作っていったのですが、そのカードが向こうで使えず、野澤さんのお小遣いに助けられて6か月間生き抜けたので、本当に助かりました。一度、母と野澤さんと阿部先生の連携で、インドは危険だからと強制帰国させられた時がありました。でも、私は人生の中でのたった1年間を途中で終わらせていいのかという思いと、期待は裏切れない思いで1年間を過ごしたわけですが、その生活は日本のようには豊かではありませんでした。でも郷に入れば郷に従えで、そこにはそこの生活があるということを学ばせて頂いて、私の人生の分岐点となりました。ここで考え方がガラリと変わりました。インドで一緒だった他国の留学生とも今でも連絡をとっています。今の若い世代の人たちが繋がれば、世界平和というのは実現可能だと思っています。今日は長い時間お話しさせていただきましたが、野澤さんはじめ、ロータリーの青少年交換委員会には本当に感謝しております。今でもローテックスとして活動していますが、これから派遣する子どもたち、また、日本にきている来日生をこれからも支えて、私の経験を引き継いでいけたらいいなと思います。これからもよろしくお願い致します。

■点鐘：中丸会長